

海洋環境の快適性に関する市街地住民意識の調査結果

九州共立大学工学部 学生会員 越智 正幸
九州共立大学工学部 正会員 片山 正敏

1. はじめに

海岸線近くでの波の音や風の音は、時として心地良く感じることもあれば、不快に感じることもある。沿岸域(ウォーターフロント)の開発にあたっては、このような海洋環境の快適性にも配慮した、すなわち、自然環境の創出に配慮した基本計画が大切である。この観点から、海洋環境の快適性に関する沿岸域住民の意識調査に引き続いて市街地住民の意識についてアンケート調査を実施したので報告する。

2. アンケート調査の概要

北九州市の市街地住民に対するアンケート調査の概要を表-1に示す。調査場所は、北九州市八幡西区浅川台(海岸から3~5 km)、折尾(同5~7 km)、則松(同7~9 km)、永犬丸(同9 km以上)の4ヶ所である。(図-1参照)これらの市街地区においてアンケート調査を留置・回収の方法により行った。

3. 回答者の属性

(1) 回答者の年齢、性別

回答者の年齢は、30~50歳代の中年層が大多数を占めており(図-2参照)、性別は、女性(71.4%)、男性(28.6%)で、女性のほうが多い。

(2) 回答者の職業

回答者の職業は、専業主婦(55.2%)が過半数を占めている。次にその他(21.9%)で、会社員(10.5%)となっている。沿岸域での調査時と異なって「専業主婦」が過半数を占めている。

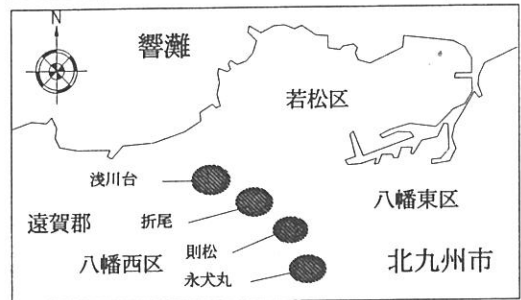
4. 波の音に関する快適性

2つの海岸地区における波の音の心地良さに関する快適性については、海が荒れている時は比較的「不快」と感じる傾向にあることがわかる。自然海岸、人工海岸ともに、同様な結果が得られた。(図-3参照)また、「普通」と感じている人が圧倒的に多いことから、市街地住民にとって波の音は日常生活の上で心理的影響が少ないようである。

続いて、2つの海岸地区における波の音の響きについては、自然海岸では、海が穏やかな時にはよいが、

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	北九州市八幡西区の市街地住民
調査期間	平成14年8月~10月
調査方法	居住地を訪問し、調査票を留置・回収
調査項目	風4、波の音についての快適性12 風の音についての快適性10、その他 の海洋環境についての快適性28
回収数	129(有効回答者数105)
有効回収率	81.4%



浅川台: 3~5 km 折尾: 5~7 km
則松: 7~9 km 永犬丸: 9 km以上

図-1 調査場所

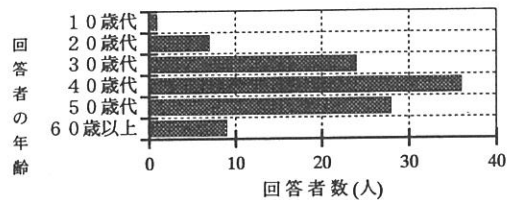


図-2 回答者の年齢

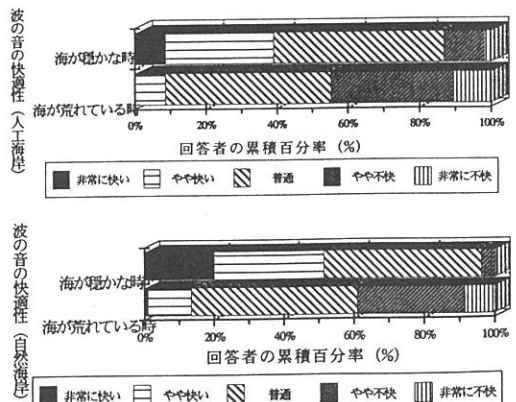


図-3 波の音の心地良さに関する快適性

荒れている時は響きが悪いと感じており、また、人工海岸でもほぼ同じような結果になった。沿岸域での結果とほぼ同様である。次に澄み具合について、自然海岸では穏やかな時は澄んでいると感じているが、荒れている時は澄んでいないと感じている。人工海岸についてもほぼ同様な結果が得られた。沿岸域と比べると、穏やかな時に非常によいと感じる人がやや少なく、荒れている時は、同じような結果になった。

5. 海風の音に関する快適性

海風の音の心地良さに関する快適性については、木々にあたった時、強風時には「不快」と感じ、弱風時には「快適」と感じる傾向にある。(一例として図-4参照)電線にあたった時にも木々にあたった時と同様の傾向がみられる。続いて、響きについてみると、木々、電線にあたった時ともに、心地良さと同じような結果になった。沿岸域と比べると、木々にあたった時には同様な結果となったが、電線の場合には、不快の割合がやや多かった。

6. その他の海洋環境についての快適性

夏の海洋環境に関する快適性については、いずれの海岸地区とも夏は湿気が多いため、潮のべとつきについては、「べたつく」という回答が過半数を占めている。(一例として図-5参照)続いて、海岸を歩いている時の海風についてみていくと、夏・冬ともに「快適」という回答が比較的多くなっている。

夏・冬の海洋環境における快適性を比較検討してみると、全般的には、季節の変化によって異なるものであることがわかる。物理的な面では「不快」と感じる傾向にあり、心理的・生理的な面では、季節にあまり関係なく、「快適」と感じる傾向にあることがわかる。沿岸域についても、ほぼ同じような傾向であった。

7. SPSSによる分析結果

SPSSを用いて、「海風に関する快適性に関して」コレスポネンス分析を行った。分析した項目は、夏・冬の海風の暖かさ、強さおよび海岸線を歩いている時の心地良さの6つである。夏の海風の暖かさ、強さ、海岸線を歩いている時の心地良さに対しては、同じような反応を示しており、「快適」と感じているようである。また、冬の海風の暖かさ、強さに対して同様な反応を示し、「不快」と感じているようである。

「その他の海洋環境に関する快適性」については、4つのグループに分けて分析した結果、全般的に夏は「快

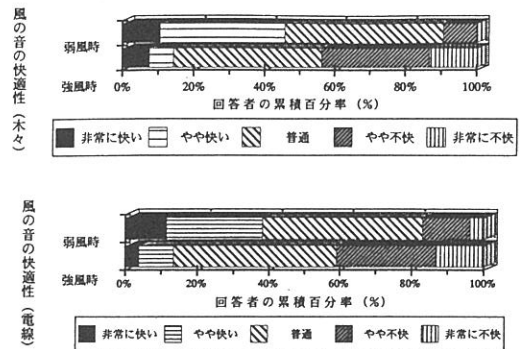


図-4 風の音の心地良さに関する快適性

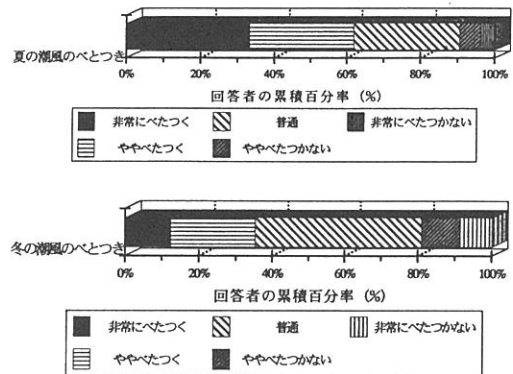
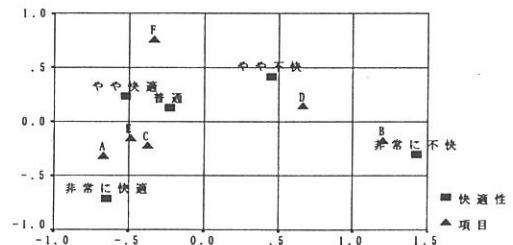


図-5 その他の海洋環境に関する快適性



A: 夏の海風の暖かさ B: 冬の海風の暖かさ
C: 夏の海風の強さ D: 冬の海風の強さ
E: 夏海岸線海風の心地良さ F: 冬海岸線海風の心地良さ

図-6 コレスポネンス分析(海風関係)

適」と感じ、冬は「不快」と感じていることが多いということがわかった。

8. おわりに

沿岸域における住民の意識調査に引き続いて市街地住民を対象にした「アンケート調査」より、住民が生活する上での快適性・不快性について基礎的な知見を得ることができた。今後、さらに他場所における調査を進め比較検討を行いたい。